

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年12月19日（月）～平成28年12月25日（日）〔平成28年第51週〕の感染症発生状況

第51週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は19.28人と前週（25.42人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.33人と前週（7.02人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.78人と前週（3.00人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

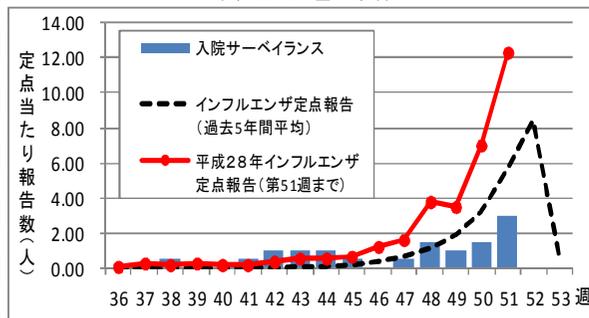


インフルエンザ流行発生注意報発令！

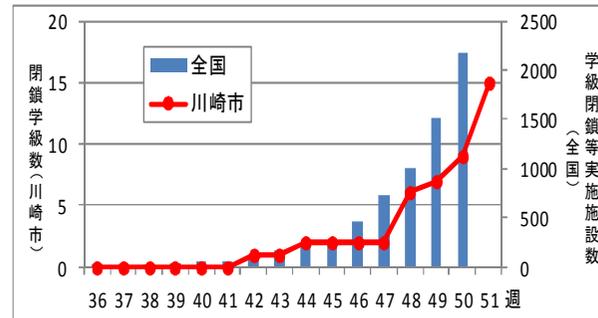
川崎市では、インフルエンザの第51週（平成28年12月19日～12月25日）の定点当たり患者報告数が12.33人となり、流行発生注意報基準値（定点当たり10.00人）を超えたため、市内に流行発生注意報を発令しました。

インフルエンザの患者報告数が増えるとともに、入院サーベイランスの定点当たり報告数や市内におけるインフルエンザによる学級閉鎖報告数も増えています。
 年末年始にかけて、予防対策（咳エチケットや手洗いなど）を心がけましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況（第36週以降）



学校等におけるインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等実施状況（第36週以降累積報告数）



学校保健安全法での取り扱い：インフルエンザによる出席停止期間の基準は、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまでです。

ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りではありません。

